

新任式・1学期始業式講話

皆さんこんにちは。この4月に本校に赴任いたしました。櫻井と申します。

本校に来て、素晴らしい施設、設備に感激しました。そして背後に富士山を仰ぎ絶景のロケーションであると思います。

実は今から11年ほど前に本校が吉原商業高校から富士市立高校に変わった開校式に来た経緯があります。そして今から3年前にサッカーの専門部長をしていた時に、本校が県選手権で準優勝をしました。初めて県東部から決勝に進出しましたが、敗れて悔し涙にくれる選手たちに賞状を手渡したことを覚えています。

今回、縁あって本校に参りましたが、私からまずは3つのことを心にとどめていただきたいと思います。

第一は授業を大切に、真剣に受けてほしいと思います。このことは先生方にも伝えたいところですが、学校生活の原点は授業です。学習の原点です。

2つ目は、友人を大切にしてほしいと思います。うわべだけのつきあいではなく、将来の友としてつきあってほしいですし、高めあってほしいです。人は支えられて生きていく生物です。昨今SNSのトラブルが絶えません。対面での会話が減り、そこには誹謗中傷が書き込まれ、真逆なことが起きています。クラスに部活動に友人と支えあって前へ進んでほしいものです。

3つ目は、「失敗」をたくさんしてほしいと思います。「探究」は失敗の連続です。失敗があるからこそ前に進むことができるわけで、おおいに失敗してください。そして挑戦し続けてください。

私は子どもの頃バレーボールが好きでした。今から50年ほど前にミュンヘンオリンピックで日本の男子バレーが優勝したことも理由の一つです。残念ながらその頃は背が小さく、今のようなりベロのポジションもない時代でしたので、バレー部には入りませんでした。その時の日本の代表監督の松平康隆氏は、「どんな馬鹿みたいなことでもいいから練習方法を考えろ」と選手たちに言ったそうです。松平監督自身も独特の体操やトレーニング方法を採り入れ、ありとあらゆることをして優勝に導きました。選手が考えた一つに「一人時間差攻撃」というものがあります。実はこれはセッターのミスでボールが上がらず、そのことで編み出されたものでした。これこそまさに失敗の功名です。

理科の実験でも同じです。とにかく失敗を重ねながら、これまで色々な成果を上げてきました。ノーベル賞などは失敗の賜物です。学校の部活動も同じで、「どうすれば勝てるか」「何をやれば勝てるか」と考え続けること、これこそ探究に他ならないと思います。

以上の3つを頭に入れながら、これから学校生活をおくっていきましょう。すべては考えることから始まるのです。

(令和4年4月7日、始業式)